

外国語（英語）問題 出題意図

I

問 1. 本和訳問題は、抽象的な研究内容を扱った英文を正確に理解し、日本語として自然で意味の通る表現に訳す力を測ることを目的としている。特に高校生にとってやや抽象的な語句をどのように適切に訳すかに焦点を当てている。単語の直訳にとどまらず、文脈を踏まえた意識を行う力、さらに日本語として読みやすく整える表現力を評価する狙いがある。

問 2. 本和訳問題は、実験の手続きや条件を説明する英文を正確に理解し、日本語で分かりやすく再現する力を測ることを目的としている。特に受験生にとって馴染みの薄い表現をどのように自然な日本語に訳すかに焦点を当てている。論理的な文脈の流れを崩さずに表現できるか、また専門的な内容をかみ砕いて分かりやすく表現できるかを評価する狙いがある。

問 3. 本設問は、文章中で研究者がどの点を「興味深い」と述べたのかを理解し、それを自分の言葉で的確に説明する力を測ることを目的としている。単に内容を要約するのではなく、研究の従来知見と今回の新たな発見との対比を踏まえて論理的に説明できるかを問うている。読解力に加え、適切な日本語表現力も評価の対象としている。

問 4. 本設問は、筆者の主張を支持する具体例を本文中から的確に取り出し、要点を整理して制限字数内で簡潔に表現する力を測ることを目的としている。英文読解においては、抽象的な議論とそれを裏付ける具体的な事例を結びつけて理解する力が不可欠である。本問題ではその力に加え、限られた字数で無駄なく日本語で表現する要約力・表現力の習得度も評価の対象としている。

II

問 1. 本和訳問題は、ケニアでの野生ヒヒ観察に基づく研究の一節を素材としており、生物学的知識に依存せずとも文脈理解が可能な内容である。受験生には、英文を逐語的に処理するのではなく、状況描写と筆者の気づきを関連づけて自然な日本語に再構成する力が求められる。特に「傷の治癒の早さ」を自分との比較で表す箇所を的確に訳出することを通して、英文の修辭的効果や意味の対比を把握できているかを評価する意図がある。

問 2. 本問題は、研究者たちがどのようにして治癒率を導き出したのかを、本文の記述に即して 40 字以内で簡潔にまとめさせるものである。受験生には、文章全体を正確に理解する読解力に加えて、重要な実験方法や比較のポイントを抽出する力が求められる。また、字数制限によって不要な表現を省き、核心部分を過不足なく表現する要約力・表現力を測る意図がある。

問 3. 本和訳問題は、人間の体毛の少なさと傷の治癒速度の遅さを因果関係として説明する英文を正確に理解させることを目的としている。受験生には、文頭の Since が「～なので」と理由を示す接続詞であることや it makes sense that～を自然な日本語に訳せるかを問う。内容面では、他の哺乳類との

比較を踏まえ、人間の特徴を説明する論理の流れを把握する力を測る意図がある。

問 4. 本問題は、本文後半で述べられる「人間が傷の治癒率の遅さという不利をどのように克服してきたか」という進化的観点を理解させることを目的としている。受験生には、仲間や家族からの支援や薬用植物の利用といった具体的な要因を本文から適切に抽出し、70 字以内で簡潔にまとめる力が求められる。これにより、科学的説明を読解し要点を整理する能力、さらに字数制限の中で過不足なく表現する要約力を評価する意図がある。

III

問題 A.

本英訳問題の出題意図は、文章理解力と自然な英語表現力を測ることにある。特に、抽象的な概念を英語で適切に表現できるか、また日本語の複文や強調構造を英語の論理構造に沿って正確に再現できるかを確認することを狙いとしている。さらに、文化的背景に依存する語彙を英語で自然に訳す能力も評価の対象としている。

問題 B.

本設問の出題意図は、受験者の想像力と自己表現力を測ることにある。「どのような超能力を持ちたいか」という問いを通じて、個人の価値観や関心、社会的な問題意識を英文で論理的かつ具体的に表現できるかを評価することを狙いとしている。また、約 70 語という語数指定を設けることで、限られた分量で文章を整理し、簡潔かつ明確に意見を述べるライティング能力も測ろうとしている。